2015年（平成27年）
第91号
（7月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

開祖の平和への想いにふれる　～第９回　開祖記念館　公開講座～

６月４日、京都教会法座席に於いて「第９回開祖記念館公開講座」が開催され、近畿支教区から約1,000 名の参加がありました。

「開祖の平和への想いにふれる」をテーマに清水寺貫主森清範猊下と佐藤益弘・西日本教区長に講演頂きました。

佐藤教区長は「仏・法・僧」に当てはめ、開祖さまの日頃の様子を分かりやすく伝えられました。

森清範猊下は師匠である大西和上と開祖さまの様子や清水寺の梵鐘について述べられました。（要旨は３頁に記載）

参加者一同、お二人の講話に熱心に耳を傾け、明日からの精進を誓い合いました。

時事刻々

太平洋戦争の末期、京都市内でも空襲があったことを知る人は少ないでしょう。当時はかん口令が引かれ、今では正確な記録も残っていないと言います▼昭和２０年の１月に東山区馬町、３月に右京区春日、４月に右京区太秦、５月に京都御所、６月に上京区出水（西陣空襲）がありました。中でも、西陣空襲が、最も多くの犠牲者を出しました▼上京区智恵光院通の辰巳公園に、十年前「空爆被災を記録する碑」が設けられました。その碑には、死者四十三人、負傷者六十六人、罹災者八百五十人とあります▼「京都市は文化財が多くあり空襲を免れた」と言われているようですが、実際は５回の空襲があったのです。戦後七十年が過ぎ、戦争体験者が少なくなり、悲惨な被害の記憶も消えていきつつあります▼当時の体験したある人の言うには「路上に肉片が転がっていた光景を思い出す。国同士のいざこざや、戦争はなくなってほしい」と。その思いをこれからも受け継いでいく使命があるでしょう。

今月のことば　～先祖に感謝できる幸せ～　　西京支部長　　阪尾高世

今月は西京支部の阪尾が担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

七月号の「佼成」では、**《先祖に感謝できる幸せ》**というご法話を会長先生から頂きました。

前段は**【命の尊さに気づく】**です。「私たちは日頃から親孝行や先祖供養を大切にしていますが、皆さんは**『先祖を供養できることが、実はこの上なく幸せなこと』**という事実にお気づきでしょうか」と問いかけを頂いています。

「お盆を迎えると、私たちは盂蘭盆会を催し、命をつないで下さった先祖に感謝の誠を捧げ、先祖が喜んで下さるような人生を歩もうと、人格を磨くことを誓います。**だれにも遠慮せずに先祖供養できるのは、それ自体がとても有難いことなのです**」

また、「先祖供養の本当の意味と大切さを知り、しかも実践できる私たちは本当に幸せだと思います。数限りない先祖からの命のタスキでつながれ、いま私たちは連綿とつながる命の最先端を走っているのです。そうした自分の命の大切さをかみしめ、生かされているいまに感謝する。それが先祖供養の基本的な意味合いだと思います。**『先祖の誰ひとり欠けても私は存在しない』**という命の軌跡を知る契機であればこそ、先祖が本当に喜んで下さる供養となるのです」と教えて頂いております。

私は昨年から、先祖供養を毎月させて頂くようになり、早いもので一年半が経ちました。そして、今月のこの有難いタイトルに感動させて頂きました。わが家の毎月のご供養を通して、ご先祖さまに今を感謝させて頂いております。

後段は、**【世界中の幸せのために】**です。「仏典に「七仏獲一」(ひちぶんぎゃくいつ)という言葉があります。供養の功徳はその七分の一が供養した先、すなわち先祖に届き、残りの七分の六は供養する人が受けるという教えです。**先祖が私たちにいちばん望んでいるのは、家族が仲良くし周りの人たちと調和して生きることです**から、日々の小さな務めをおろそかにしないことは、先祖に対する何よりの供養に違いありません」

また「先祖供養とは、詰まる所自分の命の尊さをかみしめる機会といえますが、そのことによって**先祖への感謝の念が深まると、私たちは自己のあり方や生き方を真摯に見つめずにはいられなくなります。**その内省が一隅を照らす菩薩行の実践へと結ばれるとき、生きる喜びと真の幸せを味わうのです。

開祖さまが親孝行、先祖供養、菩薩行を一つにくくり、ご教導下さった理由もここにあります。親族だけがご先祖ではなく、三千大千世界(私たちの住む世界)すべてが自分と縁のつらなる先祖だということです。目の前の困っている人、世界中で苦しむ人のために平和な世界を成就する。これが先祖に対する最大の供養です。戦後 70 年の今年、命と平和の尊さをかみしめ、一歩を踏み出したいと思うのです」と結んで頂いております。

私は日々のご供養の後、主人と私の両親に対して**「産んで頂いて有難うございます。育てて頂いて有難うございます。法縁に結んで頂いて有難うございます」**と言わせて頂いております。ご先祖さまに感謝し、今に感謝し、世界の平和のために精進させて頂きます。

合掌

青年婦人部だより　「ちょっといい話!!」　～西京支部　特区副主任　平林希予さん～

今年度より婦人部、女子部の体制が変わり、39 才以下の婦人部、女子部層を中心とした特区という地区が各支部に出来ました。この変化によって、若手婦人層の発掘に支部全体が取り組んでいます。

そんな中、西京支部では５月２日三重県までバスで行く潮干狩りを企画して下さいました。婦人部、女子部、少年部を中心に家族連れでの参加も多く、40 名の参加となりました。

バスの中では、小学６年生の金澤あさかさん司会のもと、クイズやゲームで楽しませてもらいました。そして現地に到着すると、子供達はもちろんのこと、大人の私達も潮干狩りに夢中になり、貝を見つけては「あったぁ！」と楽しい声が飛びかっていました。

普段ではなかなか出来ない体験を通して、子供も大人も会話が弾み、とても楽しい時間になったと思います。

今回の企画を通してできた支部の輪が、今後の若手婦人層の発掘と育成につなげて行けることをめざして、これからも精進していきたいと思います。

開祖記念館　公開講座　講話要旨（佐藤益弘教区長、森清範猊下）

佐藤教区長は開祖さまが７７歳の頃から９２歳までの１５年間、秘書を務められ、昭和５９年３月１５日に開祖さまの随行で初めて来たのが京都だったと話し始められました。そして**「仏・法・僧」**に当てはめ、開祖さまの日頃の様子を分かりやすく伝えました。

「仏に帰依する開祖さま」として、本部近隣の他教団の前を通ると必ず車中から合掌されていたことなど、どのようなことがあっても仏さまのことを最優先にされた姿を語りました。

「法に帰依する開祖さま」として、在京教会の駐車場のために土地を購入された時には「土地はお金で買うことが出来るが、ご法はお金では買えない」と活きたお金を使うことが大事だとおっしゃっていた姿。しかし、ご自身はいたって質素で、本棚を購入する時にも少欲知足を実践されていたエピソードを紹介されました。

「僧に帰依する開祖さま」として本部に参拝された幼少の子供たちには満面の笑みでお迎えされ、「お当番に来てくれたんだね、しっかりお当番して帰ってね」とおっしゃっていた姿を通して子供だから大したお当番ができないという見方ではなく、すべて仏の子であるということ、公務の合間を割いてでも団参に来られた 5,000 人の信者さんを大事にしなければならないと、ご法話を述べて信者さんを合掌された姿を紹介されました。

最後に６という数字が開祖さまと縁が深いことを述べ、６月は平和推進、布教伝道推進月間と言えるのではないかと述べました。

森清範猊下は天気の話しに触れられ、開祖さまもいつもいい天気だったとお聞きしていると述べられました。

そして、開祖さまと猊下の師匠である大西和上とはずいぶん前からの友人のようで、**「私たちは霊鷲山で一緒だった」**とお二人の会話を紹介されました。大西和上は開祖さまの心に同調されて、お二人の心はピタっと一つになっておられたこと。そして、その心は梵なる心（梵心）といえるのではないかと述べられました。

大西和上が開祖さまのことを**「あのような方を菩薩さまというんだ」**と言われ、山を降りる開祖さまの車が見えなくなるまで見送られていたことを情景が思い浮かぶように話されました。

また、清水寺の梵鐘の歴史について触れ、**梵とは荘厳、さわやか、素敵の意味がある**と説明。鐘の音は本当にいい音色で、鐘の音が聞こえるから家路に帰り、鐘の音を聞いてその日一日を感謝で終わると感謝の大切さを述べられました。

そして**「仏に祈る」と「仏を祈る」**の違いを説明されました。「仏に祈る」とは現世利益。「仏を祈る」とは感謝の気持ちを述べる本来の姿であって、お願いするのではないと、ここでも「感謝」を述べられた。

最後に、見える命とは自分自身の体、見えない命とは宇宙総がかりで私を支えてくれているエネルギーであって、このエネルギーに気付くことが大切だと述べ、これは宗教が違っても同じことだとその大切さを強調されました。

これから来る人口減少時代への心得　～かめおか・こころ塾 vol.50～

６月 13 日、「ガレリアかめおか」において、「かめおか・こころ塾」が行われました。

今回は、立正佼成会元京都教会長で、国際仏教教会（ＩＢＣ）顧問の後藤益巳氏の講演がありました。同塾は９年前から開催され、今回が記念すべき 50 回目になります。講演に先立ち、かめおか宗教懇話会の宝積玄承会長の挨拶がありました。６月 13 日は亀岡城主であった明智光秀が亡くなった日であることを紹介し、平和を願う日にふさわしく、亀岡から世界平和を目指したいと述べられました。

後藤氏は「在日外国人へのアプローチ　～少子超高齢化社会……人口減少社会に向かっての日本～」と題し、現在の日本が置かれている課題を、さまざまなデータや自らの経験をもとに、詳しく語られました。

人口減少への対策として、「将来的には移民を受け入れざるを得なくなるので、外国人との交流を深める。異なる宗教や考え方を持つ人たちとの共生を図るため、私たち自身の差別心を取り除き、日本人のもつ勤勉さ・誠実さなどの良さを学んでもらうことが大切になる」と指摘されました。

水子供養　～今、命を頂いていることに感謝～

６月 14 日、京都教会にて水子供養が行われました。スパークルブラスの鼓笛演奏のもと奉献の儀がとり行われ、大人と子どもを合わせて 30 人弱の参加となりました。その後、教会長さんお導師のもと読誦修行、続いて伏見支部の岩崎さんによる体験説法がありました。岩崎さんは毎日のご供養の後、「お母さん産んでくれてありがとう」と感謝の言葉を言わせて頂いていることや、ご先祖さまを大切にすることの大切さを説法されました。

また現在、国際仏教教会 IBC の後藤益巳氏から講話を頂きました。開祖さま、会長先生とのエピソードを当時の様子を伝えながら教えて頂きました。また諸行無常の精神をホワイトボードを使い分かりやすく説明して頂きました。命があることは当たり前ではない、そして人として命を頂いていることの有り難さを感じさせて頂きました。

地区明社活動レポート　～生き物を大事にする子どもたちの育成を願って　西京明社～

5月 24 日と３０日に、さつま芋を植えました。子どもたちに自然に触れ、植物が育つ様子を見せてあげたい。そして、子どもを中心として縁が広がることを願い、会員さんが提供して頂いた畑をお借りして、さつま芋の苗を植えました。

24 日に芋を植える準備として、土を耕し肥料をまきました。1 週間ほど土をなじませて 30 日に苗を植えました。土いじりはもちろん、畑仕事などしないので大変だと思っていました。ところが、お父さん方はスコップを持つと、表情が変わり生き生きと土を掘って下さる方、黙々と作業をして子ども達の負担を軽くして下さる方と、様々ですが活躍して下さいました。日頃、家族のために働いて下さる様子が伺えました。

30 日の苗植えは、土に 50 センチ程の棒を斜めに差し込み穴を開け、そこに苗を入れて植えました。土に穴を開けるのはお父さん方が、苗を植えるのは子供たちがしてくれました。子供たちはカエル・ヘビ・ミミズ・虫を見つけては、はしゃいでいました。その様子を見るのは嬉しかったですし、お父さん方の頑張っておられる姿を見ることができ、頼もしく思いました。

暑い中での作業でしたが、無事に終わり良かったです。たくさんのお陰さまです。秋の芋堀りが楽しみです。ありがとうございました。

7～8月の主な教会行事

7 月 1 日(水)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4 日(土)	9:00～	開祖さまご命日
10 日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
15 日(水)	9:00～	盂蘭盆会・釈迦牟尼仏ご命日
8 月 1 日(土)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4 日(火)	9:00～	開祖さまご命日
10 日(月)	9:00～	脇祖さまご命日
15 日(土)	9:00～	戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日

●メッセージ

私事ですが先日、義理の母の七回忌法要を行うことができました。お寺のお坊さんとは義母の両親からお世話になっていて、家内が赤ん坊の時代から知って頂く方です。こちらからすればお坊さんお一人ですが、きっと何百人という檀家さんをお持ちで、その中で家内の人生を見ていて下さっていたことにありがたい気持ちになりました。私たちも会員さんとのふれあいの中でお手本とさせて頂きたいと感じました。